

被災地に寄り添った救助・支援活動 そしてこれから

——活動内容について教えてください。

広報担当 救助・支援活動は9月6日から10月14日の計39日間になります。10月9日時点になりますが、3町にフォーカスした活動実績を申し上げます。

警察や消防と連携した人命救助・行方不明者捜索は36名の発見、出動人員は約3万6,300名、施設機材（油圧、バケット、ドーザ）557台の提供、約6キロメートルの道路啓開、給水支援約1,100トン、給食支援約13万3,000食、入浴支援2万2,100名、そのほか、音楽演奏、輸送、衛生、自治体の臨機二重への対応となります。

また、発災直後から北海道庁、厚真町、安平町、むかわ町にリエゾンオフィサーを派遣しました。リエゾンオフィサーは、各

自治体と自衛隊の連絡調整を行い、両組織をつなぐ役割を担います。

第7特科連隊は、陸上自衛隊第7師団（東千歳）隷下部隊で、警備担当区域は日高町、平取町、むかわ町、厚真町、安平町です。

——発災直後の動きについて教えてくださいませんか？

深江 地震発生当時は自宅におりました。地震が発生し、飛び起きてそのまま

出勤。寝ている飛び起きるほどの揺れで、これは間違いなく出勤がかかるだろうと思いました。部隊はすでに非常勤務態勢



深江 健也さん

陸上自衛隊第7師団第7特科連隊
 当時第1特科大隊第2射撃中隊前進観測班長 厚真町派遣
 （現第1特科大隊連絡幹部） 深江健也さん
 当時第1特科大隊第1射撃中隊前進観測班長 安平町派遣
 （現第3特科大隊第1係） 渡辺 淳さん
 当時第2特科大隊第3射撃中隊前進観測班長 むかわ町派遣
 （現第2特科大隊運用訓練幹部） 瀧上敦士さん

に移行しており、速やかに厚真町へ向かうように命ぜられました。

渡辺 私も同じく飛び起きて、家の中を見渡すとこれは出勤がかかるなと思ひ、連絡が来る前に出勤すると、すぐに安平町へ行くよう命ぜられました。

瀧上 私も地震と同時

に飛び起き、すぐに着替えて出勤し、直ちにむかわ町への出勤を命ぜられ、そのまま出発しました。



瀧上 敦士さん

——役場までの道中はいかがでしたか？

深江 厚真町に向かうためには、安平町を

たと記憶しています。

——役場に到着し、最初に何をされましたか？

深江 私が厚真町役場に着いたのは5時半頃です。最初にいつも防災担当でお世話になっている方の所に行って現在判明していることを教えてもらい、状況の把握に努めました。

瀧上 5時40分頃にはむかわ町役場に着きました。役場では職員の方が被害状況を把握するためにそれぞれ奔走している状況で、情報を収集し、それを部隊のほうに報告させていただきました。

渡辺 早く到着したということもあり、安平町役場は本当に足の踏み場もないほど物が散乱していて、自分たちの居場所をつくるために物をどかさないといけない状態でした。町職員の方が把握している状況などの情報を収集し、それを部隊に報告しました。

——厚真町での救助活動について教えてくださいませんか？

深江 自衛隊の部隊が厚真町に投入され、



土砂崩れの現場で人命救助に当たる陸上自衛隊員（陸上自衛隊第7師団提供）

經由することになります。いつも通る道路は道道10号千歳鶴川線ですが、地震により安平町と厚真町の間が土砂でふさがれてしまいました。結果、遠回りを余儀なくさ

れ、信号もすべて消えている中で、急ぎながらも慎重に前進していったと記憶しています。午前5時半頃には役場に着きました。渡辺 いつもは信号の点いている所が点いていない。街も真っ暗で、とても違和感があったのを覚えて

ています。土砂崩れ・地割れなどを想定していたのですが、駐屯地から安平町までは特にそういう箇所はなく、すぐに安平町役場に到着することができました。午前4時半頃に着いていたと記憶しています。

瀧上 向かっていたむかわ町役場の本庁舎は海に面しています。ただ、ニュースなどを事前に確認する時間がなく、現場がどのような状態にかまったくわからない状態でした。

地震による津波の心配を念頭に置きつつ、経路上に異常がないかに気を配って前進。午前5時40分頃に到着してい

上級部隊の指揮所が立ち上がった段階で、リエゾンオフィサーとしての職務をいったん解かれて、行方不明捜索班の現場に投入されることになり、吉野地区に入りました。道路があった所が完全に土砂で埋まっていたり、住宅が形を崩しながら流されていたりという状況で、「生死を分けるタイムリミットの72時間」というものがあります。一刻も早く見つけ出すため、9月7日の朝から行方不明者全員を救助した9月9日22時48分まで全力で捜索活動に当たりました。

——緊急対応から生活支援に移りますが、どのような活動をされましたか？

瀧上 給水、給食、入浴に、それぞれ支援部隊が入っていましたから、自衛隊とむかわ町役場との連絡調整役として細かいニーズに応えられるように話をうかがい、さらに困っていることはないかと自分で色々と現場を回る形で活動し、要望の具現化に向けた調整をしました。

深江 生活支援に活動の重点が移行してからは、私も同じように自治体の方々のニーズを把握して、部隊と調整する役割に回っ

力的に支援して下さったことは印象に残っています。物を運んでいることに気づくと、手伝いに来てくれる。大変な中でも思いやりを大事にしていらつしやいました。逆に元気をいただき、安平町が大好きになりました。

深江 おそらくボランティアの方だと思えますが、仮設トイレを毎日びかびかに磨いている方がいらつしやいました。当然、私たちも色々なところには配慮をしています。そうした細やかなところを配慮されている姿を見て、身の引き締まる思いがしました。

瀧上 被災者の方々が不自由を強いられる生活の中、給食と入浴支援により笑顔になつてくださったことは嬉しく感じました。皆さんに寄り添った支援を行うことが大事にし、少しでも役に立てたことが実感できて、温かい気持ちになりました。

——激甚災害の経験から、今後必要だと思つておりました。

深江 幸い、町との協定を見直しする職務に就いておりますので、見直しを通じてより迅速で効果的な災害救助に当たるように

ておりました。

渡辺 安平町で保有する救援物資を避難所へ送り届ける手段がないということでしたので、自衛隊車両で運んだり、土砂でふさがった道路を開けるための重機に燃料がほしいという要望があったので、その旨を部隊に伝えました。また、町の広報車が足りないということ、車の手配の連絡なども私の役割でした。

瀧上 一人では入浴できない高齢女性の方のために、時間を分けて入浴できるように、部隊の女性隊員と協力しながら調整したことを覚えております。

渡辺 給水所には住民の皆さんが水を取りに来られておりましたが、自動車などの移動手段のない方々は取りに来るのが難しい。そこで安平町役場の担当者と話をして、移動給水を実施しました。

したいと思っています。例えば災害時に自衛隊が集結する場所は現在は一カ所ですが、地震や水害など、災害の規模や種類によって変えていかなければならないことがわかりました。そうしたところも見直していきたいと考えています。

渡辺 私たち自衛隊には担当の町があります。担当の自治体と我々自衛隊との日頃の連携の大切さをこの地震で感じました。そして、物の準備です。こういう物を持つていたら、すぐにこういう支援ができるということがありましたので、日頃からの準備や訓練が必要だと強く思いました。

瀧上 私も、町の担当者との顔つなぎは大切なことだと思えました。むかわ町の職員とは個人的に面識のない状態で支援をさせていただいたんですが、平素からそのような体制が整っていたならば、より良い支援ができていたのでは

——自衛隊が撤収するまで町に在勤されたそうですが、在任期間にはどのような思い出がありますか？

渡辺 大変な時なのに、皆さんがとても協



避難所前での慰問演奏の様子〔陸上自衛隊第7師団提供〕

ないかと強く感じましたので、翌年度からは、上司だけでなく直接現場に行く隊員も顔合わせをするよう取り組んでいます。



入浴支援を行う陸上自衛隊員と被災者〔陸上自衛隊第7師団提供〕